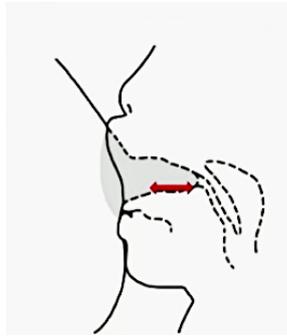


哺乳指導

- 乳首をしっかり口に含んで哺乳させましょう。乳児は哺乳時に、舌の中央部分で乳首を保持し加圧します。それに加え、舌根部を上下運動させることによって、口腔内に陰圧と陽圧を形成し、母乳を咽頭へ流しこみます。この運動によって、軟口蓋の挙上運動が起こり、顎骨の正しい成長と舌の使い方のトレーニングが行われます。



- 哺乳瓶の人工乳首には、乳児が吸わなくても倒しただけでミルクが出てくるものがあります。そのような哺乳瓶を使用すると、常に出てくるミルクをせき止めるため、舌が前後にピストン運動しながら飲みこむようになります。そうすると、大切な口腔機能を育成することができず、舌突出癖や異常な嚥下といった癖がついてしまいます。これが、将来的に開咬などの不正咬合を招いてしまいます。人口乳首の開発が進められており、できるだけ母乳を飲むときと同じような舌や口腔周囲筋の動きになるように作られているものも発売されています。
- 乳児の背骨は C 字型にカーブを描いているため、背筋を伸ばすよりも背中が丸くなっている方が安定します。また、まだ首がすわらないうちは、口呼吸を防ぐため、頭を後屈させないように、乳児の頭を支え、丸く抱きかかえるようにして授乳します。
- 夜間の授乳時によく行われる「添い寝授乳」や「授乳しながらの入眠」は、体が左右どちらか一方に傾いていることで、体の歪みにつながり、片側のむし歯が発生するリスクや、交叉咬合になるリスクがあります。これらは極力避けて、お母さんは体を起こした状態で授乳するようにしましょう。

横抱き



縦抱き



添い寝授乳（側臥位）



フットボール抱き

